



# おもしろ にいがた学

新潟方言・郷土史研究家 大田 朋子

## プロフィール

新潟市出身（出生地は柏崎市）  
東京で大学・研究室生活を経てUターン  
雑誌記者、コピーライター、ライター、インタビュアーの仕事をするうちに、方言や習俗、歴史に魅せられ、研究、普及につとめる  
心理学・新潟学等講師、経営学修士(MBA)、新潟郷土史研究会会員  
著書「独断大田流にいがた弁講座」（新潟日報事業社）  
「おもしろ えちご塾」（桓文社）  
「郷土とことわざ」（人間の科学新社・共著）等

## 「めのこかんじょ」

大雑把なモノの数え方を表すことばに「目の子算」があります。新潟では「目の子算」よりも「目の子勘定」の方が通りがよいようで、さらに「ウ」音脱落化により、「めのこかんじょ！」と発音されていっそう新潟弁らしい響きとなっています。実際、「めのこかんじょ」が立派な新潟弁と思っている人も筆者の周りには多々おります。

確かに、県内では露天市場や直売所で、「お勘定ねがいます」より「かんじょしてくんなせ〜」のウ音脱落の方が馴染みやすいようです。

ところでこの「めのこかんじょ」、調子よく「二に、四し、六ろ、八や、十とお」「にの、しの、ろの、やの、とお」「ちゅう ちゅう タコかいな」等々二つ単位で十まで数える文言がみられます。

これが遊びの場面となると「だるまさんがころんだ」が一般的で県内でも使われています。新潟県は独自の方言や、他県では使われていない古語の言い回しが多く残る地なのですが、この「めのこかんじょ」に関して調べてみたら主に「乃木將軍（または乃木さん）は偉い人」「東郷さんは偉い人」という文言のみ発見。残念ながら、県内ではこれ以外の文言が今のところ見当たりません。これは長野の一部でも使われていたようです。こどもの遊びの世界にも時代背景が反映していることがうかがえます。

では、県外にあるユニークな言い回しをご紹介します。東北地方（特に仙台を中心に）「クルマのとんてんかん」（車を直しているのだろうか？それとも工場の繁栄ぶりを表現したのだろうか？）、とんてんかんのリズムが耳に残ります。

「兵隊さんが通る」これは、関東地方の言い回しです。上記の乃木將軍や東郷さんに通じる時代背景

です。東北地方の「クルマのとんてんかん」も、暗に軍事工場を表していたのかもしれませんが。

さて、関西方面では大阪・京都「坊さんがへをこいた」でちょっと品が落ちます（大阪・京都の人かんべね）。茨城・栃木方面では「インディアンのおんどし」でこれまたあきや〜の感じですが、遊び文句と考えると当時のこどもの笑い声がしてくる文言です。紀州では「あかめ、しろめ、くろめ」と指を折っても十にならない数え方もあり、地域により様々な言い回しがあります。実はほかにもまだあるのですが、ここでは披露出来ない文言ばかりですので、代わりに県内で採集した「地名かんじょ」をお伝えいたします。

「越後（いち イチゴと発音するところがポイント）、新潟（に）、三条（さん）、与板（よん）、五泉（ご）、村松（む）、長岡（な）、弥彦（や）、九州（きゅう）、東京（とお）！」。おそらく九（きゅう、く）の付く県全域に知られている地名が見当たらず、苦肉の策で九州にしたのでしょうか。十の「とお」は十日町という手もあるが、それだと九州が唐突なので、十日町にはすまぬが、東京で締めたという感じがしないでもありません。しかし、新潟の主要地を織り込み発音にも配慮した力作「地名かんじょ」だと思います！

